

山陰教区も営む 法要動画公開し機運高める



山陰教区・山陰教堂の親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要は10月3日、島根県の出雲市民会館で営まれた。教区内の僧侶、寺族、門信徒ら600人が参拝し、各組の代

表僧侶20人が出勤。有志で作る雅龍会がりゅうかいの僧侶が雅楽を奏で、「新制 御本典作法」をつとめた(写真)。特命布教講師の服部法紹さんが法話を行い、協賛行事は、落語家の月亭方正さんが落語を披露し、「落語の中の浄土真宗」をテーマに宗門校・相愛大学の釈徹宗学長と対談した。

同教区は昨年4月から「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)の一環で、フードバンク活動に取り組んでおり、慶讃法要でも食品の提供を呼びかけ、参拝者からは米、缶詰、レトルト食品、飲料水などが寄せられた。8、9月に教務所に届けられた品々と合わせ、鳥取県庁など鳥取、島根両県6カ所に届ける。

また、法要の様子は教区ホームページでライブ配信され、来年5月21日までホームページで法要と法話の場面の動画を公開する予定。佐々木了慎教務所長は「感染症拡大の影響で参加者の人数制限をせざるを得なかったが、動画を通じて多くの方に感動を届け、来春の本山での法要に向けて機運高揚につなげたい」と話している。